

<過去1週間の動き>

(9月25日～10月1日)

USD/RUB: 72.400～73.240

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、細かい上下動を織り交ぜながらも、振り返ってみれば横ばい。この間、金融市場で目を引いたのは、米長期金利上昇。10年国債利回りは、約3ヵ月ぶりに1.5%を上回り、28日には1.5%台半ばまで上昇した。米長期金利上昇は、22日の米連銀公開市場委員会が、年内の資産購入縮小(テーパリング)開始、来年央までの完了を示唆した他、理事全員のFF金利見通しを示したドットプロットが、2022年末までの利上げ開始の可能性を(50/50と)示したことをきっかけとした。その後の、米長期金利続騰には、米債務上限問題に関する不安感も寄与したものと考えられた(米上下両院は30日に暫定予算法案を可決、バイデン大統領も署名して、結局、連邦政府機関閉鎖などはあっさり回避されたものの)。米長期金利上昇は、それだけでもドル押し上げ要因(ルーブル売り要因)と読まれたが、株価や原油価格の下落を招くことでも、ルーブル建ロシア国債(OFZ)連れ安(利回りは上昇)を招くことでもルーブルの重石となった。この間発表されたロシア経済指標に対する市場の関心は、必ずしも高いようには見えなかったものの、29日に発表された週次CPI(～9月27日)には少なからぬ意外感があった。7月第2週以降、前週比-0.1～+0.1%の間で推移してきた同指数が、突然+0.29%に上振れたのだ。この発表を受け、(10月6日に発表予定の)ロシア9月CPIの予想は、8月の前月比+6.7%から、同+7.3%と大幅に上振れることになった。物価上振れは、単純に、ロシア中銀利上げ観測を強め、ルーブル押し上げ要因と読まれる可能性も考えられたが、ルーブルの反応は限定的にとどまった。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/30	13:00	経常収支(USD)	Q2 F	+18168mln		+19900mln
10/1	16:00	GDP(前年比)	Q2 F	+10.5%	+10.5%	-0.7%
	16:00	失業率	8月	4.4%	4.5%	4.5%
	16:00	小売売上高(前年比)	8月	+5.3%	+4.9%	+5.1%
	16:00	実質賃金(前年比)	8月	+2.2%	+2.6%	+4.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(10月2日～10月8日)

USD/RUB: 72.50～73.50

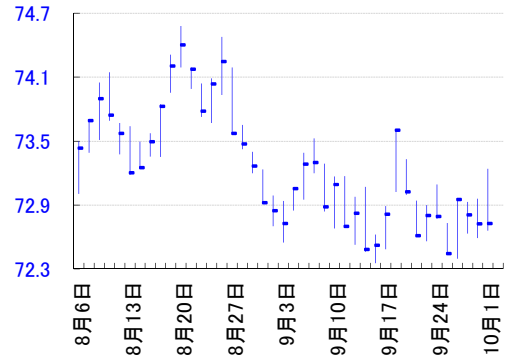
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、軟調を予想。昨年同時期の推移に鑑みれば、10月以降、ロシア物価が減速していくのはほぼ確実と見込まれる。週次CPIの突然の上振れ(上述)の要因は現在までに定かでないが、仮に9月CPIが予想通り前年比+7.3%まで上昇したとすると、10月22日のロシア中銀金融政策委員会が予想を上回る50b.p.の利上げ(→7.25%)に踏み切ったとしても、政策金利が物価を下回る(実質マイナス金利)の状態は更に2週間ほど長引くことになる。こうなると、9月10日の利上げ幅を25b.p.にとどめたロシア中銀金融政策委員会の判断の是非が問われるように思われる。ナビウリナ総裁は、同委員会後、もう25b.p.×2回の追加利上げの可能性を示唆したが、そんな示唆をしておきながら22日にいきなり75b.p.利上げに踏み切るのも、いかにも狼狽しているように見えるだろう。たかが2週間と言ってしまうほどのことではあるものの、一時的にでも物価上昇の後追いを強いられるような状況に陥ってしまったのは、ロシア中銀「らしくない」のではないかと。ルーブル軟調を見込むのは、ロシア中銀の「らしくなさ」に対する失望もあるが、それ以上に、米長期金利高止まりとドルの堅調を見込むことの方が大きい。米連銀9月公開市場委員会が終わりと、米債務上限問題が片付き、米9月雇用統計発表(8日)までは、足下方向感や水準感を明確に変える要因は乏しいのではなかろうか。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/4-10/8		国民福祉基金(USD)	9月			190.5bn
10/6	16:00	CPI(前年比)	9月		+7.3%	+6.7%
10/7	13:00	外貨準備高(USD)	9月		619.0bn	618.2bn

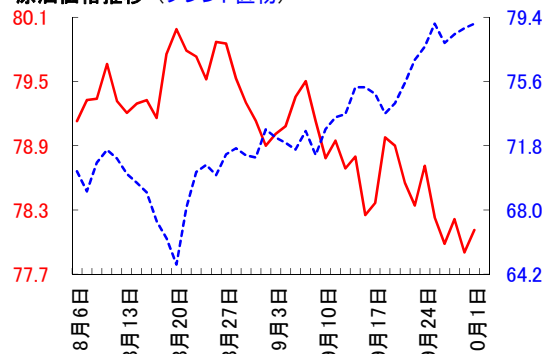
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)

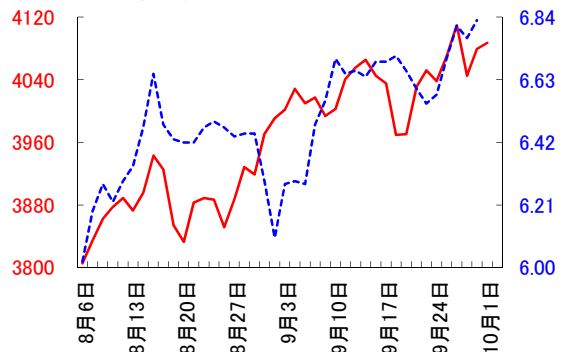


株・ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX 指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		6.75%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+10.5%
失業率	8月	4.4%
消費者物価(前年比)	8月	+6.7%
小売売上高(前年比)	8月	+5.3%
鉱工業生産(前年比)	8月	+4.7%
貿易収支(USD)	7月	+23.1bn

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。